TROPICAL
FRUITS

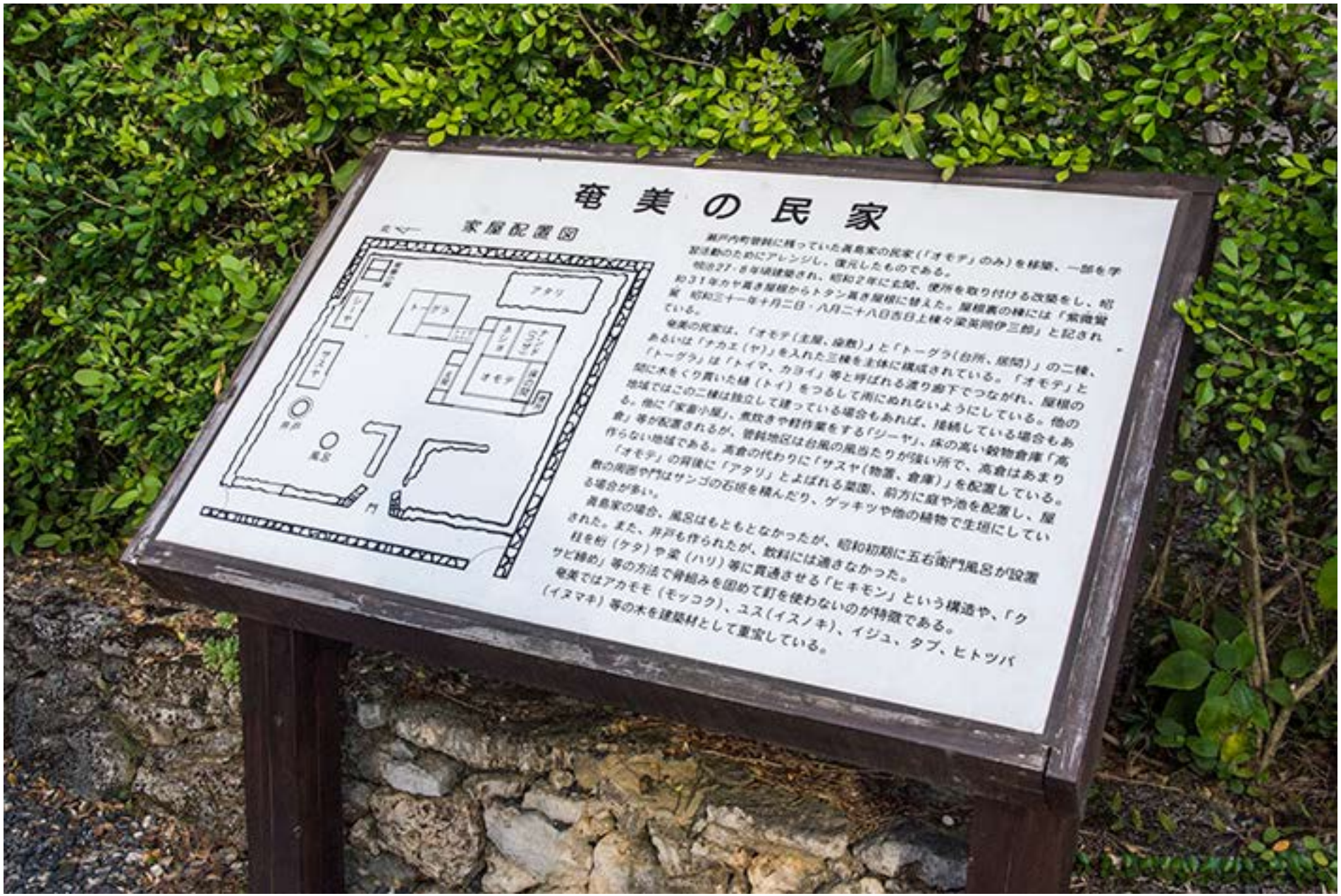
2.5
173

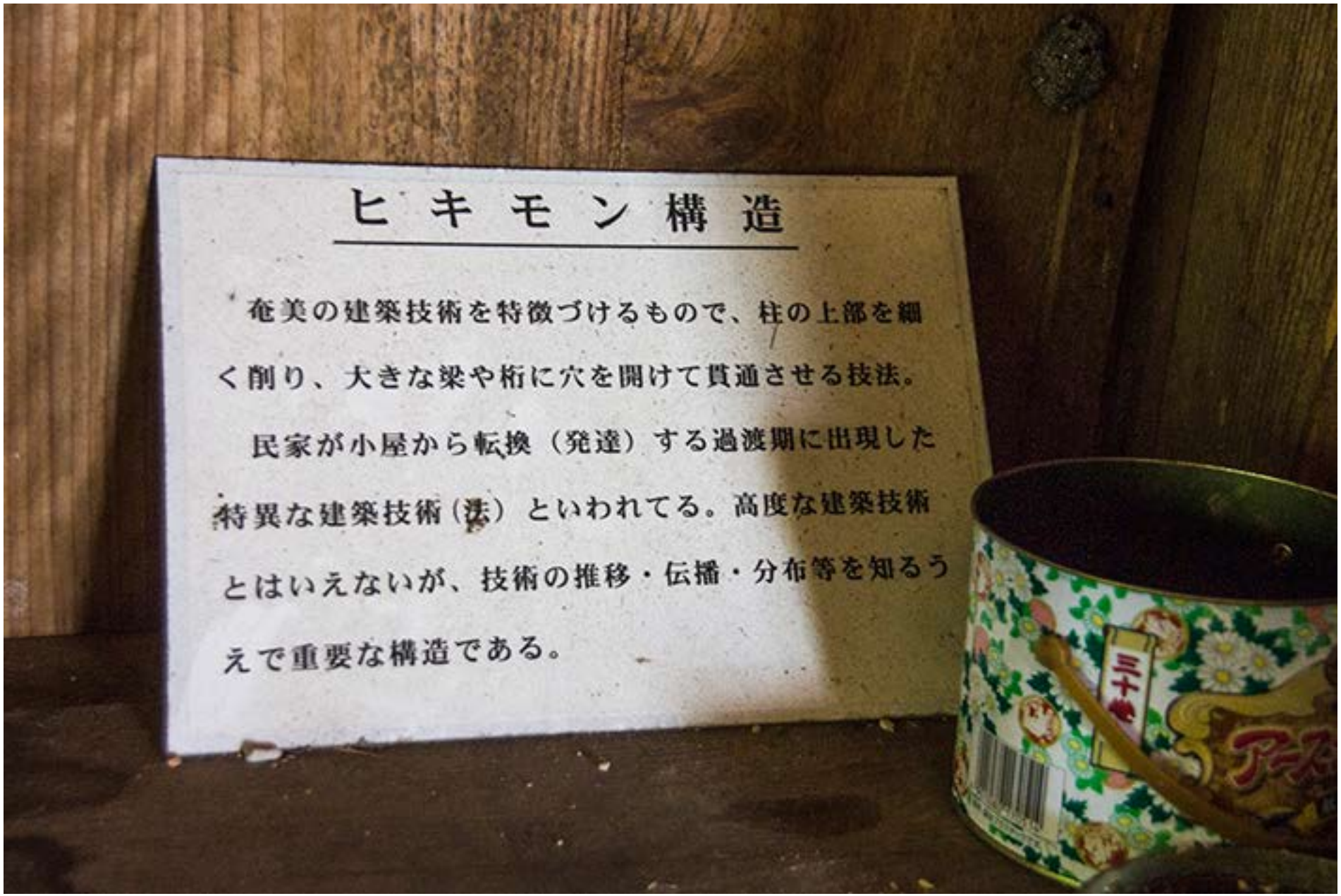
2,000
3,300

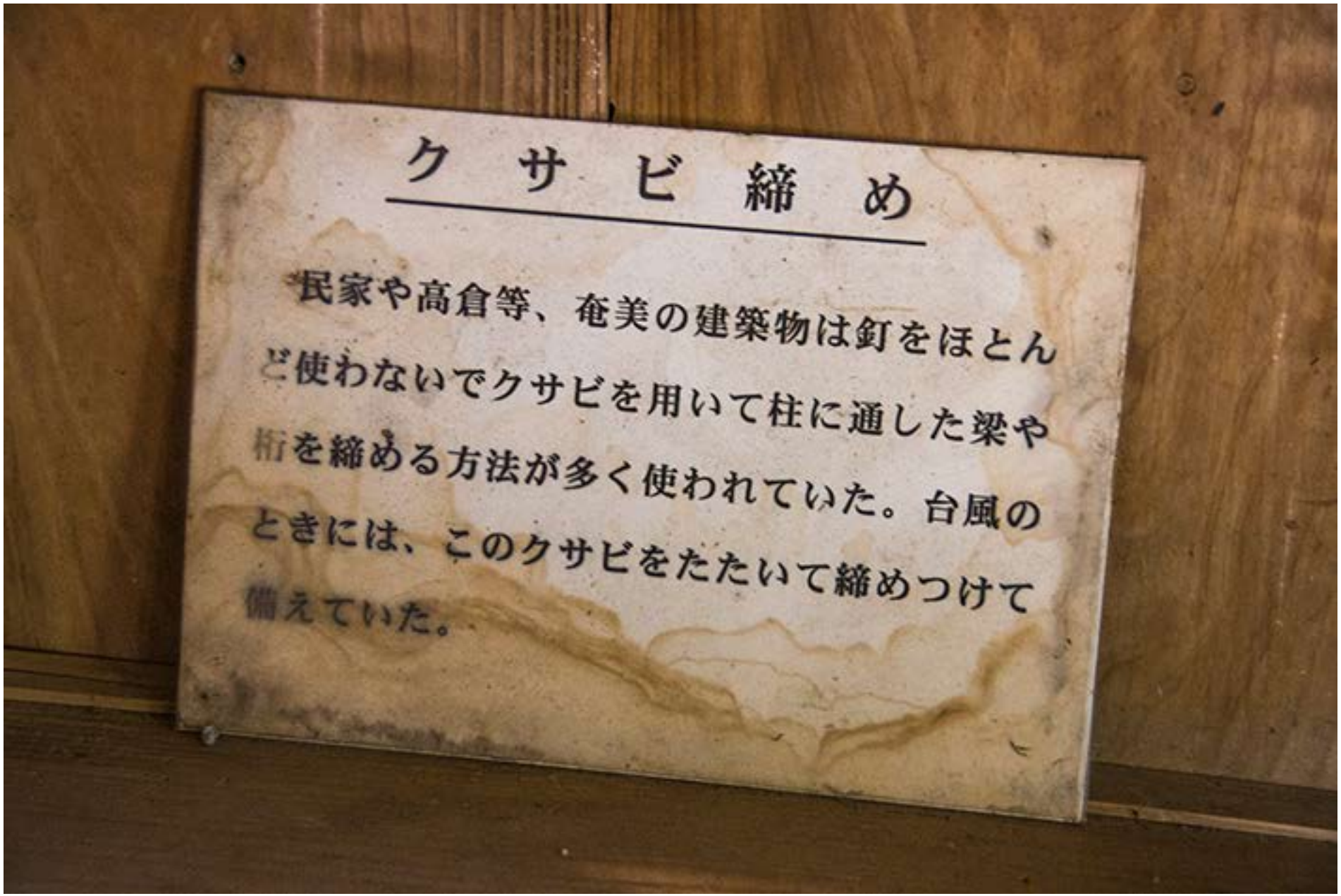
2.000
.500

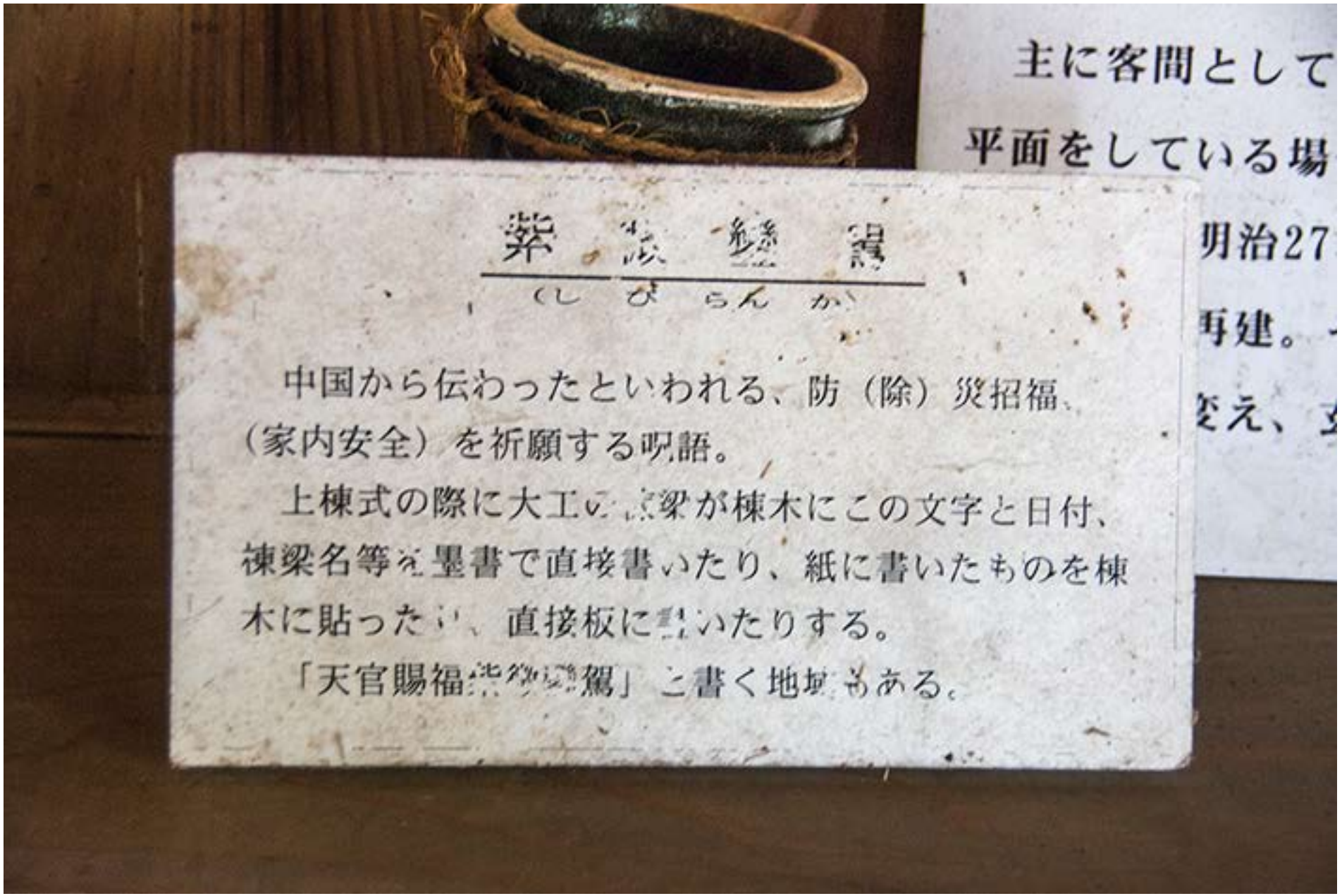
2,000
3,300

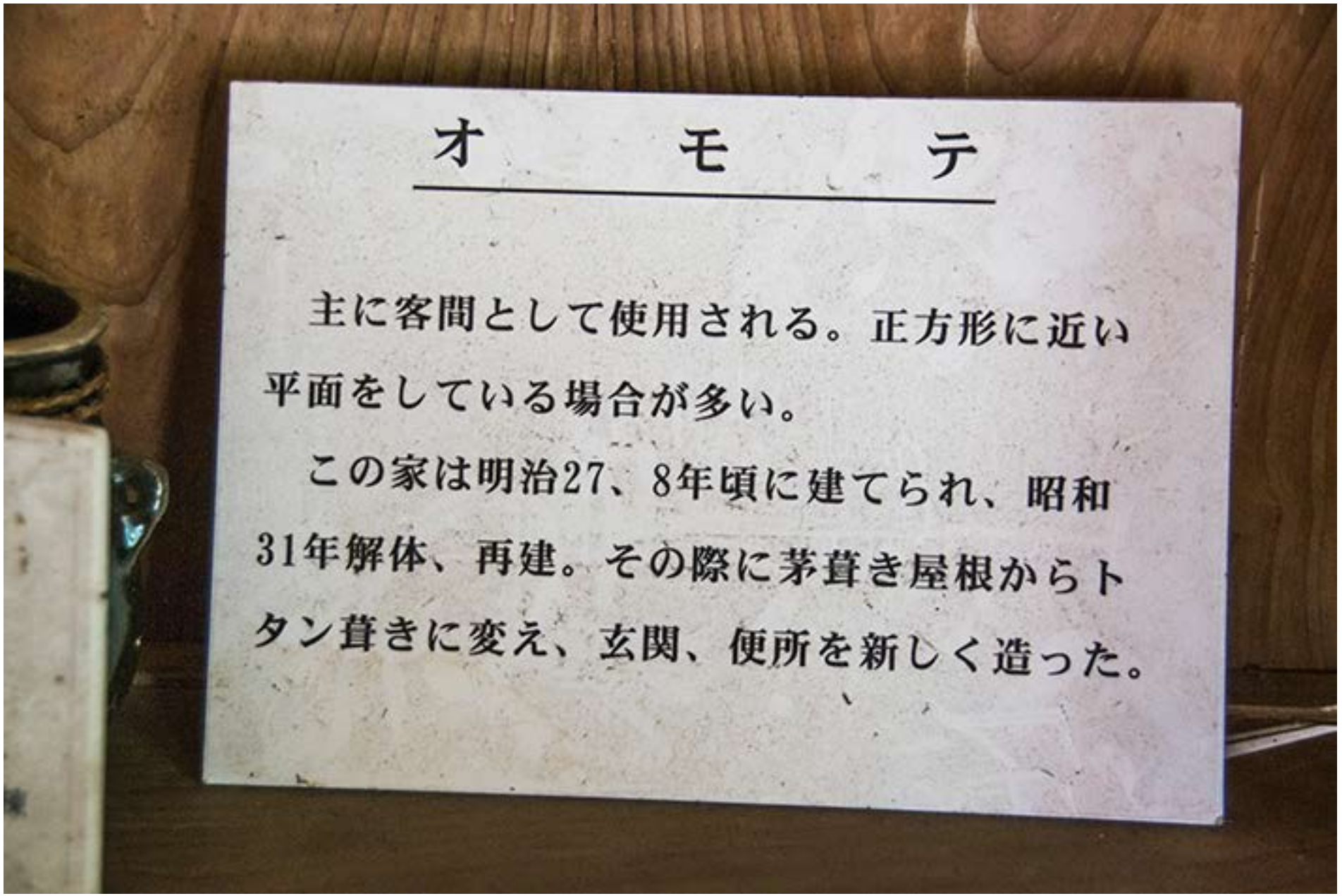
ポンカン
3/0円
青梅
3/0円


奄美の民家
家屋配置図
アタリ
トーダラ
オモテ
井戸
風呂
門
瀬戸内町嘉鉄に残っていた黄島家の民家（「オモテ」のみ）を移築、一部を学
習活動のためにアレンジし、復元したものである。
明治27・8年頃建築され、昭和2年に玄関、便所を取り付ける改築をし、昭
和31年カヤ葺き屋根からトタン葺き屋根に替えた。屋根裏の棟には「紫微堂
屋 昭和三十一年十月二日・八月二十八日吉日上棟々梁英岡伊三郎」と記され
ている。
奄美の民家は、「オモテ（主屋、座敷）」と「トーダラ（台所、居間）」の二棟、
あるいは「ナカエ（ヤ）」を入れた三棟を主体に構成されている。「オモテ」と
「トーダラ」は「トイマ、カヨイ」等と呼ばれる渡り廊下でつながれ、屋根の
間に木をくり貫いた樋（トイ）をつるして雨にぬれないようにしている。他の
地域ではこの二棟は独立して建っている場合もあれば、接続している場合もあ
る。他に「家畜小屋」、煮炊きや軽作業をする「ジーヤ」、床の高い穀物倉庫「高
倉」等が配置されるが、嘉鉄地区は台風の風当たりが強い所で、高倉はあまり
作らない地域である。高倉の代わりに「サスヤ（物置、倉庫）」を配置している。
「オモテ」の背後に「アタリ」とよばれる菜園、前方に庭や池を配置し、屋
敷の周囲や門はサンゴの石垣を積んだり、ゲッキツや他の植物で生垣にしてい
る場合が多い。
黄島家の場合、風呂はもともとなかったが、昭和初期に五右衛門風呂が設置
された。また、井戸も作られたが、飲料には適さなかった。
柱を桁（ケタ）や梁（ハリ）等に貫通させる「ヒキモン」という構造や、「ク
サビ締め」等の方法で骨組みを固めて釘を使わないのが特徴である。
奄美ではアカモモ（モッコク）、ユス（イスノキ）、イジュ、タブ、ヒトツバ
（イヌマキ）等の木を建築材として重宝している。


ヒキモン構造
奄美の建築技術を特徴づけるもので、柱の上部を細く削り、大きな梁や桁に穴を開けて貫通させる技法。
民家が小屋から転換（発達）する過渡期に出現した特異な建築技術（法）といわれてる。高度な建築技術とはいえないが、技術の推移・伝播・分布等を知るうえで重要な構造である。


クサビ締め
民家や高倉等、奄美の建築物は釘をほとんど使わないでクサビを用いて柱に通した梁や桁を締める方法が多く使われていた。台風のときには、このクサビをたたいて締めつけて備えていた。


主に客間として
平面をしている場
明治27
再建。
変え、
紫微鑾駕
しびらんか
中国から伝わったといわれる、防（除）災招福、
（家内安全）を祈願する呪語。
上棟式の際に大工の棟梁が棟木にこの文字と日付、
棟梁名等を墨書で直接書いたり、紙に書いたものを棟
木に貼ったり、直接板に書いたりする。
「天官賜福紫微鑾駕」と書く地域もある。


オ　モ　テ
主に客間として使用される。正方形に近い平面をしている場合が多い。
この家は明治27、8年頃に建てられ、昭和31年解体、再建。その際に茅葺き屋根からトタン葺きに変え、玄関、便所を新しく造った。

小結豊年祭奉納相撲大会
小結春日神社奉納相撲大会

オ　モ　テ
主に客間として使用される。正方形に近い平面をしている場合が多い。
この家は明治27、8年頃に建てられ、昭和31年解体、再建。その際に茅葺き屋根からトタン葺きに変え、玄関、便所を新しく造った。

CARGO FERRY LINE
鹿児島～奄美大島

TOKARA

CARGO FERRY LINE
鹿児島－奄美大島

奄美への低運賃運航を願う市民の集い
斉藤正道
越間多輝鐘
永井章義
与力雄
徳田毅
若松篤範
戸内恭次
三島照